

## ◆日本史◆ 科目別講評

### (1)出題方針

出題の基本方針は、例年と変わることなく、以下の2点だった。

① 高等学校教科書『日本史 B』の範囲を逸脱しないこと。

教科書の範囲とは、各出版社の『日本史 B』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。

ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。

② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。

この基本方針にもとづいて、本年度は、

(102)古代～中世・政治(60点)/近世・社会経済(45点)/近現代・文化(45点)

(103)古代～中世・社会経済(60点)/近世・文化(45点)/近現代・対外交渉(45点)

(104)古代・政治(45点)/中世・対外交渉(45点)/近世～近現代・社会経済(60点)

(105)古代・対外交渉(45点)/中世・社会経済(45点)/近世～近現代・政治(60点)

(106)古代・文化(45点)/中世・政治(45点)/近世～近現代・対外交渉(60点)

(107)古代～中世・文化(60点)/近世・政治(45点)/近現代・社会経済(45点)

という、時代と分野の枠組みバランスから、出題することとした。

### (2)解答状況および解説

各学部・学科別の受験者・合格者の平均点は「受験者・合格者の科目別平均点」(p.10)を参照してほしい。全体としての出題の難易度は例年と大差はなかったと考えるが、(102)が日本史を選択した受験者全体の平均得点率 58.9%・合格者全体の平均得点率 74.4%と低く、(103)受験者平均得点率 63.1%・合格者平均得点率 75.7%、(107)受験者平均得点率 63.0%・合格者平均得点率 77.2%がこれに次ぐ。他の日程ではおおよそ、受験者全体平均得点率で 67～76%、合格者平均得点率で 78～88%の幅に収まる。

以下、日程別の大問ごとの全体傾向を、合格者の平均得点率で示すと、(102)〔I〕77.0%〔II〕74.2%〔III〕71.1%、(103)〔I〕73.2%〔II〕82.9%〔III〕72.0%、(104)〔I〕72.9%〔II〕85.8%〔III〕76.3%、(105)〔I〕77.3%〔II〕79.8%〔III〕80.2%、(106)〔I〕89.8%〔II〕86.2%〔III〕87.5%、(107)〔I〕71.7%〔II〕87.8%〔III〕74.0%である。受験生にとってのおおよその難易度が知れよう。受験者全体では、(102)〔III〕近現代の学問・文化・思想に特に苦しんでおり、受験者平均得点率では 54.7%だった。一部細部にわたる出題を含むがその多くは教科書に扱われているもので、近現代の文化史は学習が手薄になりがちな分野のようだ。

また、合格者と受験者全体との間の平均得点率に 15%以上の大きな差が生じたのは、(102)〔I〕武士の発生から鎌倉幕府の成立、(102)〔III〕(前述)、(107)〔III〕近代初頭の留学生を介した技術・産業の発展と敗戦後の日本経済の動向、といった大問である。(102)〔I〕は「考える」ことを求め、(107)〔III〕の後半は敗戦後の歴史を扱うもので、ともに近年の本学入試としては新たな試みとなった。特に敗戦後については、(103)〔III〕でも対外交渉や社会動向を問うており、平均得点率の差は 14.0%だったが、受験者全体平均得点率も 58.0%と低く、学習が望まれる。

また、個別の設問についての記述解答では、例年と同じく、正確な歴史用語を習得していないための誤答や、設問の指示を見逃す誤答(文字数指定、空欄の文言指定など)も多くみられた。設問のうちには、たしかに教科書の内容をさらに踏み込んで問おうとしたものもあるが、これらについては全受験者の正答率が低いわけだから、むしろ合否を左右するのは比較的容易な設問群での着実な得点である。

### (3)受験生へのメッセージ

受験上の助言として心がけてもらうことを挙げれば、以下のとおりである。

- ① 出題方針で述べたように、教科書の範囲を大きく逸脱することはないので、まずは教科書を熟読して、基本的な内容を理解することが根本である。また、本学の問題は、歴史用語を記述する問題と語群選択の問題に大別され、どちらかといえば記述問題の方が得点差が大きくなる傾向があるので、歴史用語を漢字で正確に書くこと、設問の指示に注意することなどに、日頃から心がけて学習してほしい。
- ② 個々の知識を大きな歴史の流れの中で理解することが大切である。それによって知識を系統立てて習得できるからである。その際に、時代別だけでなく様々な分野史、たとえば政治史や社会経済史・対外交渉史などを通史的に学習しておくことも有効な方法であろう。対外交渉史では、欧米との関係だけでなく、アジアとの関係について問うことも多い。また、これも出題方針で述べたことだが、各分野を満遍なく問うため、教科書の分野別記載ページ数比率よりもやや文化史が多くなる傾向にあることにも留意しておきたい。
- ③ 日本史は、現在の日本列島のどこにでもその手がかりを見つけることが可能であり、各地の博物館や美術館などでは多様な文化遺産を目にすることもできる。マスコミなどでとりあげられる年中行事や文化財、発掘調査に関わる情報なども、歴史を身近に感じるきっかけになるだろう。日頃の生活の中で、常に歴史との関わりを意識し、また歴史への関心を育てていただくよう切望する。

## ◆日本史◆ 出題の意図

102	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	武士の発生から平治の乱までの通史と、鎌倉幕府の成立をめぐる諸見解を通して、歴史の総合的な認識を問うた。
[Ⅱ]	近世における貨幣経済・新田開発・窮民対策・経済思想について、その基礎的な理解を確認した。
[Ⅲ]	明治初期から日中戦争までの学問・教育・文化・思想などの展開に関して、その具体的な把握度を問うた。
103	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	古代～中世の国家による徴税システムの変遷と荘園制の展開について、その通時代的把握を求めた。
[Ⅱ]	真宗教団における僧俗分離過程と平田派国学に関する論述をもとに、宗教・思想・政治などの多角的理解を問うた。
[Ⅲ]	太平洋戦争開戦から敗戦後のサンフランシスコ平和条約締結に至る過程の、総合的な理解度を確認する出題。
104	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	旧石器時代～古墳時代の葬送を中心とした遺跡のありかたから、古代の政治・社会などを理解する見方を問うた。
[Ⅱ]	7世紀～16世紀の東アジア世界と日本との対外交渉についての教科書記述をもとに、その基礎的な理解を求めた。
[Ⅲ]	近世・近代の社会・経済に関する4つの史料や記述から、経済・文化・政治・社会などの総合的な把握度を問うた。
105	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	古代の対外交渉に関する6つの基本史料を通して、その史料と記述内容に対する基本的な理解度を確認した。
[Ⅱ]	室町時代における産業と流通経済の進展に関して、その教科書記述の基礎的な理解を求めた。
[Ⅲ]	教科書における幕藩体制・朝幕関係と大日本帝国憲法制定過程の記述をもとに、その基本的な理解を問うた。
106	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	飛鳥～平安時代の文化の展開を国家的視点から描いた論述をもとに、古代文化の基礎的事項の把握度を問うた。
[Ⅱ]	南北朝～室町時代の政治史に関する教科書記述をもとに、その基本的知識の理解度を確認する出題。
[Ⅲ]	16世紀～19世紀の日本をめぐる国際関係の動向について、その通時代的・総合的な基本理解を求めた。
107	<b>出題の意図</b>
[Ⅰ]	古代・中世における高僧伝と仏教の展開に関する記述を通して、その具体的な宗教史的理解を問うた。
[Ⅱ]	寛政改革から明治維新に至る政治過程について、その基礎的事項と基本史料の理解度を確認した。
[Ⅲ]	幕末派遣留学生を介した技術・産業の発展と、敗戦後の経済動向の記述から、その具体的総合的な理解を問うた。